

琵琶湖の豊かな水産資源は、縄文時代から食糧として利用されてきました。これまでに確認された縄文・弥生時代の貝塚では、石山貝塚（縄文早期）、粟津貝塚（縄文前期～中期前葉）、滋賀里遺跡（縄文晩期）、大中の湖南遺跡（弥生中期）があります。

そのなかでも粟津貝塚と石山貝塚の規模は卓越しており、海岸域に形成された縄文時代の大貝塚と比較しても遜色がありません。

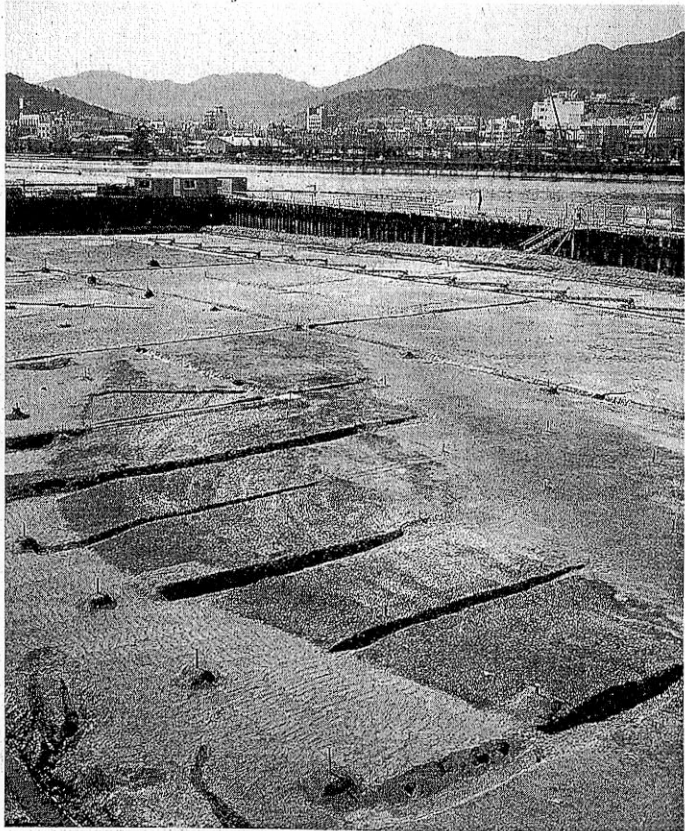
粟津貝塚と石山貝塚で主体を占めている貝殻は、シジミ貝です。われわれが調査した粟津貝塚第三貝塚では、個体数にして78%をシジミ貝が占めていました。日本列島に生息するシジミ属には、汽水産のヤマトシジミ、淡水産のマシジミと、琵琶湖固有種のセタシジミがあり、琵琶湖に生息するのはもちろん後の二種です。両者の区別はなかなか難しいですが、第三貝塚から

出土した貝殻を丹念に観察すると、マシジミらしい特徴は見当たらなかったため、すべてセタシジミとみてよいと思われます。

第三貝塚ではセタシジミのほか、横長二枚貝のイシガイ類、大型二枚貝のイケチヨウガイやカラスガイ、巻貝のタニシ、小さな巻貝のカワニナ類なども出土しましたが、食用にされた貝はさほど多量に及ぶわけではありません。

仙台湾沿岸は日本列島の中でも縄文貝塚がとくに密集する地域のひとつとして知られています。ここにそそぐ北上川の中流域には長沼・伊豆沼といった自然の遊水池が形成され、この湖畔にいくつもの純淡水性貝塚があります。琵琶湖以外で淡水貝塚が形成された珍しい地域ですが、貝塚の規模はさほど大きくはないようです。縄文人が大貝塚を形成することができた淡水域は、日本列島では琵琶湖が唯一の場所とみてよいでしょう。琵琶湖がいかに豊かな水産資源に恵まれているかを示しているとともに、人がこれ

琵琶湖の貝塚



シジミ貝が大半を占めていた粟津貝塚第三貝塚

を古くから利用してきたことを粟津貝塚と石山貝塚は示しているといえます。さて、粟津貝塚を潜水調査していたときのこと。船との接触事故を防ぐため、調査中は付近一帯の航行を遠慮してもらったことにしました。調査が始まってしばらくすると、いつも昼食をとっていた食堂

ミ貝の漁場だったのです。粟津貝塚は琵琶湖南端の湖底、石山貝塚は石山寺門前の瀬田川のほとりにあります。かつてはこの付近でシジミが大量に採れ、またとくに美味であったことから、瀬田しじみの名で知られていました。たった二例の大貝塚がここに形成されていたことからすると、縄文時代でもここが格別のシジミ産地であったのかもしれない。

大規模形成、唯一の場所

（財団法人滋賀県文化財保護協会 伊庭功）